

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	38476	
事業名	水素エネルギー利活用事業費						
評価担当課	所属名	環)環境都市推 環境政策課					
	課長名	東館 雅人	担当者名	熊谷優子、佐竹輝洋	電話番号	011-211-2877	
施策名	主	次世代エネルギーシステムの普及促進					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	水素サプライチェーン構築とモデル街区形成に係る検討、調整。				
		長期	さっぽろ圏の再生可能エネルギーを活用した水素サプライチェーン構築と燃料電池の活用を視野に入れ、モデル街区を形成。				
	取組内容	気候変動対策や災害に強いまちづくり等に資する水素エネルギーの将来の普及に向けて、官民及び地域連携のもと、再生可能エネルギーを活用した水素サプライチェーンを構築し、水素市場の創出を図る。					
	実施結果	①令和2年度に実施した水素サプライチェーンの構築検討のための実現可能性調査や関係者の意見交換により、民間事業者主導による水素サプライチェーン構築に向けた調査が開始されたことから、調査の進行状況等に関する同事業者との情報共有や調査に対する支援を行った。 ②水素エネルギーの推進及び普及啓発として都心部における水素モデル街区の形成に向け、中央体育館跡地に、官民連携による「水素ステーション」と「燃料電池を活用した集客交流施設」を整備することを庁内で決定した。					
事業実施における工夫点	①民間事業者と水素サプライチェーン構築に向けた情報共有を積極的に行った。 ②水素モデル街区の形成に向けた方針決定を庁内関係部署と円滑に進められるよう綿密に調整等を行った。						
対象者	市民、事業者、関係市町村			開始	令和2年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	地球温暖化の推進に関する法律						
他都市の状況	・福島産再生可能エネルギー由来水素の東京オリパラ活用(FCV、FCバス、選手村における燃料電池等) ・神戸、川崎における海外産水素の輸入と活用事業						

◎事業費

(単位:千円)

	令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算	
事業費	9,933	10,000	0	1,771,000	
うち特定財源	9,933	7,500	0	0	
人工	1.3	1.3	1.3	1.3	
人件費	9,360	9,360	9,360	9,360	
計(事業費+人件費)	19,293	19,360	9,360	1,780,360	
事業費の内訳	令和3年度決算	広域連携による水素サプライチェーン実現可能性調査業務:0円 国の補助金の内容が変更となったことで、予定していた調査費に活用できなくなり、調査を実施しなかったことにより支出無し。			
	令和4年度予算	水素モデル街区整備に係る中央体育館跡地の所管替えのための費用:1,771,000千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	水素モデル街区の形成			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	0	1	0	1	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	①令和2年度に実施した水素サプライチェーンの構築検討のための実現可能性調査や関係者の意見交換により、民間事業者主導による水素サプライチェーン構築に向けた調査が開始されたことから、調査の進行状況等に関する同事業者との情報共有や調査に対する支援を行った。 ②水素エネルギーの推進及び普及啓発として都心部における水素モデル街区の形成に向け、中央体育館跡地に、官民連携による「水素ステーション」と「燃料電池を活用した集客交流施設」を整備することを庁内で決定した。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	水素モデル街区整備方針のための庁内調整・決定を通して、事業規模の適正化が図られたと考える。			
事業の実手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	民間事業者が主導となった水素サプライチェーン構築に向けた調査に、札幌市も適切に連携・協力し、効率的かつ効果的に事業目的を達成することができた。			
対象者の満足度 (対象者のニーズにしているか)	A	令和2年度に実施した水素サプライチェーンの構築検討のための実現可能性調査により、災害に強く環境に優しいまちづくりに向けた検討が進んだ。また、本調査の結果や調査の一環として実施した関係事業者意見交換会を契機に、事業者が主体となって、次のステップの調査がスタートするなど、水素サプライチェーンの構築に向けた事業者のニーズに十分にこたえる取組であった。			
市民参加の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	水素を活用したモデル街区の整備に向けた準備を進めるとともに、市内の水素エネルギーの導入を促進するための施策が必要である。				
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取り組んだ見直し内容	特段無し		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	再生可能エネルギーを活用した水素サプライチェーン構築に向けて民間事業者と情報共有・支援を行うことができたほか、燃料電池の活用を視野に入れたモデル街区の整備方針が決定したため。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	<input type="checkbox"/> 改善 ● 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 モデル街区の整備に向けた事業者の公募や、事業者が主体となって進める水素サプライチェーン構築検討調査に係る情報収集や側面支援など、引き続き、水素エネルギーの普及に向けた取組を推進していく。			
	予算	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 ● その他 R5年度は水素ステーション整備のため、予算確保。 ※R4年度は中央体育館跡地の所管替に係る予算となっている		見直し効果額	0